

令和 8 年度 仙台市 英語教育改善プラン

目標

充実した言語活動と、一層のALT参画推進を通して、コミュニケーションを図る素地・基礎となる資質・能力を育成する。

☒ 言語活動
 ☐ 指導と評価の一体化
 ☒ 教師の英語力・指導力
 ☐ 校種間連携
 ☒ ALTの参画
 ☐ ICTの活用
 ☐ AIの活用
 ☐ その他

(パフォーマンステスト含む)

(専科教員含む)

(AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①英語の授業において、ALTとのチームティーチングの回数が増加した。また、授業以外の学校生活において日常的にALTとの交流機会の充実を図り、生きた英語や異文化に触れる機会を増やすことができた。

・常駐配置校
R6:5校⇒R7:45校
・授業外における児童の英語に触れる機会の創出

R5:0.8%⇒R7:9%

※R5は全国学力・学習状況調査、R7は仙台市標準学力状況調査

未だ改善が必要な点

①ALTとの連携やチームティーチング体制に関する、事前の打合せや授業中の役割分担等の共通理解が十分になされず、その効果を最大限に発揮できていない学校も見られる。

2. 要因分析

①R7年度に小学校配置のALTを増やしたことにより、授業内のみならず、授業時間外でのALTの活用場面が増加したと考えられる。こどもの学習意欲の高まりや、教職員の異文化理解に深まりが見られた。

①小学校ではALTを常駐配置して日が浅いことから、授業中の役割分担等の共通理解が十分に進んでいないことが要因として考えられる。事前の打合せを充実し、言語活動のさらなる充実を図ることが重要である。

3. 目標を達成するための施策・事業

①①「小学校外国語教育推進拠点校 公開授業研修」「小学校外国語活動・外国語科研修」「英語専科指導力向上研修」

指導力の向上並びに言語活動の充実を目指し、小学校外国語教育推進拠点校5校で公開授業を実施する等、授業づくりについての協議を行い、またALTを活用した取組例について情報共有する。

①①「仙台市独自採用ALTによる小学校訪問」

言語活動の更なる充実を図るため、JTEとALTによるチームティーチング授業を、主に本市独自採用ALTやALTアドバイザーが全小学校を対象として参観し、効果的な指導方法や、学校生活全般におけるALTと児童・生徒との交流について助言を行う。

①①「確かな学力研修委員会 授業力レベルアップ研修」

指導力向上のため、「仙台市標準学力検査の結果分析により明らかになった課題」の改善に結び付く指導事例について、実践発表をとおした共有を行う。

①①「ALT配置校の拡充」「国際交流事業の拡充」「教員海外派遣研修の実施」

小学校において段階的にALTを増員し、日常的な交流機会の充実を図る。(R8年度118校中85校に常駐ALTを配置) また、国際交流活動の機会を増やすため、学校からの要望に対し、他課や公財と連携し、留学生等の人材とのマッチングを行う。加えて、異文化や多様性への理解を深める指導者の人材育成を目的とした教員海外派遣研修を実施する。以上の取組を通して、国際的な視点に立った教育の推進を図る。

◎一定の英語力を有する小学校教師確保のため、教員採用選考において英語の教員免許状や資格を有する受験生に対して加点措置を実施し、積極的に採用する。

令和 8 年度 仙台市 英語教育改善プラン

目標

英語による言語活動と教師の英語使用の充実を通して、生徒の英語力の向上及び、コミュニケーションを図る資質・能力を育成する。

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合（R7：57%⇒R8：60%以上）

☒ 言語活動
 ☐ 指導と評価の一体化
 ☒ 教師の英語力・指導力
 ☐ 校種間連携
 ☒ ALTの参画
 ☒ ICTの活用
 ☐ AIの活用
 ☐ その他
（パフォーマンステスト含む）
（AIを除く）

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

①言語活動の充実をねらいとしたICTを活用した授業の改善が進んだ。

・電子メールやSNS、チャット等を用いたやり取り

（R6:18.5%⇒R7:40%）

②CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語教師の割合が増加したことにより、教師の英語使用が充実した。

（R6:46.1⇒R7 :63.7%）

①言語に関する基礎的知識は向上しているが、活用力は本市が設定している目標値に達していない。

＜市標準学力状況調査＞
基礎的知識

（R6:56.6%⇒R7:62.6%）

活用

（R6:39.7%⇒R7:49.1%）

②CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合が政府目標に到達していない。

（R6:61%⇒R7:57%）

2. 要因分析

①各種研修を通して、言語活動に関する効果的な指導方法について教師の理解が深まったことにより、授業における活用が進んだ。

②各種研修を通して、英語教師の意識や指導力等の高まりが見られている。また新規採用者の英語力が向上していることも要因の一つとして考えられる。

①学んだ言語材料がアウトプットに効果的に結びついていないことが考えられる。活用力を高めるために、授業内外問わず英語をアウトプットする機会を充実させる必要があると考えられる。

①②コミュニケーションの目的・場面・状況を意識した上で、基礎的知識とそれを活用させるための指導方法の改善が必要であると考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①①「英語教育に関する研究事業」

・英検IBAの実施（市内中学校より対象校を抽出）を通して、更なる実態把握と調査結果をもとに英語教育の改善・充実につなげる。

①①「中学校外国語科研修」

・コミュニケーションを図る資質・能力を育成するための指導法について、体験型ワークショップや講義・講習を通して学ぶ。

②①②「英語運用向上研修」※英語による研修

・小・中学校の教材を活用した言語活動中心の授業体験や模擬授業を通して、小・中学校の円滑な接続や連携を推進するとともに、実践的指導力及び英語運用能力の向上を図る。

②①②「宮城県外国語指導助手の指導力等向上研修」※英語による研修

・ALTとJTEの効果的なチーム・ティーチングや言語習得に有効な英語学習について講義・演習を通して学ぶ。効果的な言語活動について情報交換を行い、教師の指導力向上を図る。

①①②「確かな学力研修委員会 授業力レベルアップ研修」

・仙台市標準学力検査の結果分析により明らかになった課題について、改善のための授業や指導事例について実践発表を行い、指導力の向上を図る。

②①②「小学校・中学校外国語小中連携推進協議会」

・中学校区毎のグループワークを行い、小中連携の意義について共通理解を深める。

①②①②「国際的な視点に立った教育の推進」

・全中学校に配置しているALTの授業内外への参画を推進し、学校生活全般でALTと関わり、異文化理解の機会創出を図る。

・小・中学校で一貫して学ぶ英語を核とした新教科（R11年度全校実施）を見据え、主体的に学び続ける態度と英語を活用した表現力を育成のあり方を探っていく。

【仙台市ホームページURL】

<https://www.city.sendai.jp/kokusaiyoiku/info.html>

令和 8 年度 仙台市 英語教育改善プラン

教員の指導力向上を図り、情報や考えを的確に理解し、それらを活用して適切に表現し伝え合う生徒を、言語活動を通して育成する。

○CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合（R7:A2以上37.5%、B1以上10.8%⇒R8:A2以上60%、B1以上30%）

目標

☒ 言語活動 ☐ 指導と評価の一体化 ☒ 教師の英語力・指導力 ☐ 校種間連携 ☐ ALTの参画 ☐ ICTの活用 ☐ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教師の割合について、大幅な増加が見られる。(R6:28.6%⇒R7:77.1%)
- ②英語の授業において「オンライン会話」を実施した学校の割合が増加した。

未だ改善が必要な点

- ①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合について、政府目標の50%に達していない。(R6:43.4%⇒R7:37.5%)
- ②授業における英語担当教員の英語使用状況が本市の目標である55%に達しておらず、生徒の言語活動への指導を改善する必要がある。(R6:60%⇒R7:45%)

2. 要因分析

- ①オンライン研修や宮城県と共催の悉皆研修等を通して、言語活動に重点を置いた指導の結果、大幅な増加につながったものと考えられる。
- ②①の結果、英語の授業形態の広がりが見られたと考えられる。今後は生徒の言語活動をいかに増やしていくかが①②の更なる改善につながっていくと思われる。
- ①②特に専門学科においては時数の兼ね合いもあり、言語活動や教師の英語での発話の割合が少なくなる傾向がある。また専門学科は普通科と比べて、生徒の外部試験受験者も少なく、それらが英語力向上に対する意識や意欲に繋がりにくいといった複合的要因になっていると考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①②Teacher's Empowerment Project

宮城県教育委員会と共催で、コミュニケーション型授業展開のための指導技術取得を目指し、ワークショップ形式でより効果的な指導・評価方法を学ぶ悉皆の研修会を実施する。現状を踏まえ、教師の英語使用を増やし、言語活動を通して指導することを徹底するための研修内容を吟味し充実を図る。

①②小・中・高合同研修会

自主公開校を指定し、授業改善の中で言語活動の充実を意識した取組として工夫し、その成果を公開する。また、小・中学校の研修会において、高校の授業実践事例紹介や、研究協議を通し、連携に必要な学びの接続の在り方を考える。

①②世界に発信する高校生の育成

中等教育学校においてICT機器を活用した、生徒が実際に英語を使用する体験を通して、適切に自分の考えなどを表現したり伝えあったりする力を育成する。オンライン等による海外生徒との交流活動を充実させ、その取組を市内に波及させるとともに、効果的な指導方法及び評価方法について研究を推進し、教員の指導力の向上を図る。

仙台市教育委員会

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		55	27.3	50	43.4	55	37.5	60		60	
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		30	11	20	14.2	25	10.8	30		30	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		85	40	55	60	60		65		70	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合（％）		50	55	60	30	65		65		70	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100	100		100		100		100	
		公表（％）	100	75	100		100		100		100	
		達成状況の把握（％）	100	75	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		80	40	60	28.6	70	77.1	80		85	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合（％）		80	10	50	60	55	45	60		65	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		60	45.7	60	61	60	57	60		60	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		85	69.7	85		85		90		90	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合（％）		100	88.2	100		100		100		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100	100		100		100		100	
		公表（％）	100	92.3	100		100		100		100	
		達成状況の把握（％）	100	90.8	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		50	37	50	46.1	50	63.7	50		50	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合（％）		85	56.9	85		85		90		90	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	80	85.6	90		100		100		100	
		公表（％）	70	69.5	80		90		100		100	
		達成状況の把握（％）	70	76.3	80		90		100		100	